

地域予算は地域計画づくりと一体で進めるべき

総務常任委員会で主張しました

中川市長は、地域活性化をめざし、2023年度（令和5年度）から「地域独自の予算」を構想していることを明らかにしています。

市議会総務常任委員会では、この構想が打ち出される前から、地域自治、地域協議会をどうしていくべきかを議論し、4月には提言をまとめるべく会議を重ねてきました。

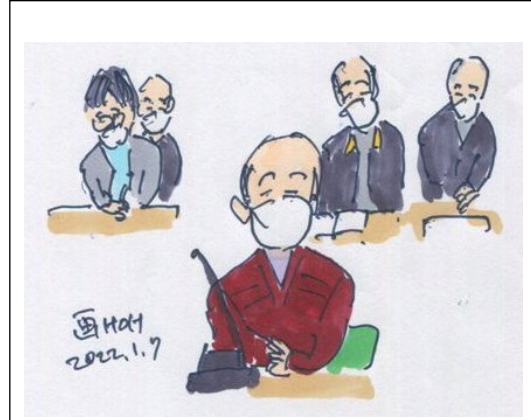
7日の委員会では、地域協議会と他組織の合体、連携を提案してきた委員との粘り強い討論をすることになりました。そもそも、市長の諮問機関である地域協議会とまちづくり団体などとの連携はあっても、合体などありえないと、私は訴えました。この日は、以前議論となった地域計画づくりも話題となりました。

私からは市長の言う「地域独自の予算」を編成していくなら、第7次総合計

画づくりの中で地域計画づくりは大前提となると主張しました。市全体の計画策定はもちろんのこと、第5次総合計画策定時に13区全体で取り組んだように、地域の将来像を描き、何を目標に、どんなことを28の各区で実現していくべきかを盛り込んだ計画を立てるべきです。

上越市自治基本条例で総合計画は市の最上位計画に位置付けられていますが、すでに第7次総合計画策定作業が始まっています。この計画は2023年度（令和5年度）から8年間の計画期間となっていて、人口減少、高齢化が続いている上越市にとっては、ここでしっかりとした対策が行われるかどうか市全体および地域の将来に決定的な影響を与えます。

多くの市民の英知を結集したなかで、市全体計画と一体の地域計画策定を求めていきましょう。



傍聴者が初めて発言

この日の委員会では、感動した出来事がありました。委員開閉会直後、滝沢委員長が傍聴席に向かってく呼びかけたのです。「せっかくの機会ですので、皆さんの方でご意見がありましたら、発言していただませんか」と。これに「応えて、傍聴者の1人が手をあげて、地域活動支援事業の審査などについて発言しました。委員会室で傍聴者が審議内容に触れた発言をしたのは上越市議会の歴史で初めてのことです。」

濃厚接触者の判断や通知を感染者任せにすべきでない

日本共産党議員団は8日、中川幹太市長に新型コロナウイルス感染拡大対策について申し入れました。新型コロナに関する申し入れは今回で8回目になります。

申し入れは、この間、市民などから寄せられた要望や党議員団の調査などでつかんだことを基にまとめ、ワクチン接種、PCR検査、医療体制、感染者等の生活支援、経済対策の5本の柱、11項目に及びました。

この中では、1番目に、3回目のワクチン接種を最大限迅速に行うこと。特に、高齢者施設・学校・保育園の職員の計画を早急に進めることを求めました。

PCR検査に関しては、①高齢者施設や医療機関などの職員、関係者について、必要な検査や陰性確認が適時にできるよう、検査キットの確保・提供や検査等にかかる費用の支援を行うこと。また、必要に応じて県にも支援を働きかけること。②学校・保育園の職員に対するPCR検査を定期的に行うことを求めました。

第6波が猛威をふるうなかで新潟県は、保健所機能の強化を追求することなく、濃厚接触者の判



断や通知を感染者任せにしたり、濃厚接触者を感染者と見なして検査もせず一律に長期間の自宅待機を強要していますが、これについては対応を改めるよう県に求めてほしいと要請しました。

経済対策では、おしぼり業者や運転代行業者、食材の運送事業者など、「まん延防止等重点措置」適用に伴う協力金支給の対象になっていない周辺事業者への支援を行うよう強く求めました。

中川市長は、しっかり検討すると約束しました。今後の動きを注視していきたいと思ひます。



【ネコヤナギ】ヤナギ科の落葉低木。漢字で「猫柳」と書きます。雪のある時期に川辺で花を咲かせるので、「春を告げる花」の1つとして多くの人に愛されています。子どもの頃、この花に触れるのが楽しみでした。通常、花期は3月～5月です。写真は1月29日、吉川区代石にて撮影しました。花言葉は、「自由」「率直」など。

はしづめ法一の活動レポート

No.2048 2022.2.13
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

QRコード
ブログ「ホーセの見たある記」はこちら
橋爪法一 検索

春よ来い

第六九五回 春になったら(3)

黄色のバラが咲いているのを見たのは一月の最後の土曜日でした。おお、この家ではまだバラが咲いている、そう思って何枚か写真を撮らせてもらいました。

バラが咲いていたのは隣の集落のSさん宅でした。あいにく、この日は曇り空でしたが、黄色のバラは美しく、花の女王としての風格がありました。

この黄色のバラを見たことで、私の心はすぐに反応しました。そう言えば、大島区板山の杉(屋号)のかちゃ、キエさんのところにもバラがあったな。あそここのバラはどうなっているだろう、そう思ったのです。

ひとたび頭に浮かぶと、ずっと気になるのは私の性分です。すぐ現地に飛びたかったのですが、その後、いろいろと用があったので、杉のかちゃの家に行けたのは五日後になりました。

久しぶりに杉の家に行くと、冬の玄関の前も前庭への道もちゃんと除雪してあります。何となくうれしくなりました。というのも、杉のかちゃは昨年の秋に体調を崩し、娘さん宅に行っていて留守はずだっただからです。

でも、市道から五斤ほど入ったところまで除雪してある。その理由は、おそらく郵便ポストです。杉の家の軒下には赤くて四角い郵便ポストがあるのです。雪をどかしてあったのは、郵便ポストを利用する人のためなのでしょう。

杉の家のバラはその郵便ポストの脇にありました。軒下まで歩いて行くと、バラの木は下見板のすぐそばまで寄っていて、雪によるダメージを避けていました。そして花は……。ひよっとすれば、このバラはピンク色の花を咲かせているかも知れないと私は期待していましたが、残念ながら花はつけていませんでした。

すでに花は終わっていました。そのかわり、実をつけていました。ここのバラの

実はミニトマトよりもひと回り小さく、色も薄赤い感じでした。その数は四個、実の形は同じでしたが、大きさは全部違いました。おそらく、花の段階から大きさに差があったのだらうと思います。

その日の夕方、私は娘さんのところに行っている杉のかちゃ、キエさんのところへ電話をかけました。正確に言うと、私が電話をかけ、母と杉のかちゃとで話ができるようにしました。

これまでもひと月に何回かは電話をかけていたのですが、母の耳は遠くなり、電話中に何度も「なしたあ」と聞き直していました。それで、今回はスマホのスピーカーを使ってみました。今度は大きな声が聞こえてきます。

「なんだ、キちゃか」

「おまさん、元気でいなかかね」

「元気だよ」

「ほっか。そりゃ、良かった」

「元気でいなきゃ、うんめもん、食わんねし。元気でいよだね」

「そうだね。春になったら、また会いたいもんだね」

「そだね」

五年前に板山の伯母が亡くなってから、母は七人キョウダイのなかで一人ぼっちになりました。そういうなかで、キョウダイのように仲良くして、お互いに励まし合っていたのが幼友達杉のかちゃでした。

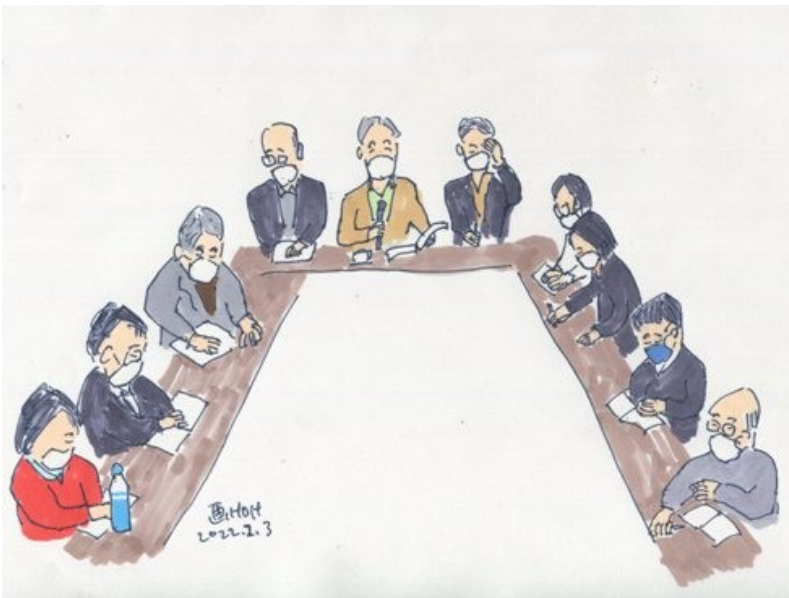
電話はこの数年間だけでも何十回もかけていますが、今回の電話は約一か月ぶりでした。

母のそばで二人のやりとりを聞いていて、気になったのは杉のかちゃの声です。何となく弱弱しく聞こえてきたのです。でも、「春になったら、また会いたい」というひと言が心に残りました。早く元気になるてもらいたい、杉の家のピンクのバラの花を二人で楽しんでほしいと思います。

吉川区では採択基準の一部を変更

吉川区地域協議会が3日開催され、新年度の地域活動支援事業などについて審議しました。

その中で、新年度の地域活動支援事業の審査については、これまで通り、地域協議会で行うことになりました。そして、採択基準については、「最後になるから事業費の規模も大きくなるかも。上限額70万円を思い切って引き上げよう」という提案があり、100万円に引き上げることになりました。



雁木通りに雪灯籠

5日、高田へ出かけたら、本町通りに雪で作った灯籠が設置されていました。レルヒ祭に合わせて制作したとのことですが、雁木とマッチしていましたね。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	2月2日(水)	2月9日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.057	0.053

春よ来い

第六九五回 春になったら(3)

黄色のバラが咲いているのを見たのは一月の最後の土曜日でした。おお、この家ではまだバラが咲いている、そう思っって何枚か写真を撮らせてもらいました。

バラが咲いていたのは隣の集落のSさん宅でした。あいにく、この日は曇り空でしたが、黄色のバラは美しく、花の女王としての風格がありました。

この黄色のバラを見たことで、私の心はすぐに反応しました。そう言えば、大島区板山の杉(屋号)のかちや、キエさんのところにもバラがあったな。あそここのバラはどうなっているだろう、そう思ったのです。

ひとたび頭に浮かぶと、ずっと気になるのは私の性分です。すぐ現地に飛びたかったのですが、その後、いろいろと用があったので、杉のかちやの家に行けたのは五日後になりました。

久しぶりに杉の家に行くと、冬の玄関の前も前庭への道もちゃんと除雪してあります。何となくうれしくなりました。というのも、杉のかちやは昨年の秋に体調を崩し、娘さん宅に行っていて留守はずだったからです。

でも、市道から五分ほど入ったところまで除雪してある。その理由は、おそらく郵便ポストです。杉の家の軒下には赤くて四角い郵便ポストがあるのです。雪をどかしてあったのは、郵便ポストを利用する人のためなのでしょう。

杉の家のバラはその郵便ポストの脇にありました。軒下まで歩いて行くと、バラの木は下見板のすぐそばまで寄っていて、雪によるダメージを避けていました。そして花は……。ひよっとすれば、このバラはピンク色の花を咲かせているかも知れないと私は期待していましたが、残念ながら花はつけていませんでした。

すでに花は終わっていました。そのかわり、実をつけていました。ここのバラの

実はミニトマトよりもひと回り小さく、色も薄赤い感じでした。その数は四個、実の形は同じでしたが、大きさは全部違いました。おそらく、花の段階から大きさに差があったのだらうと思います。

その日の夕方、私は娘さんのところに行っている杉のかちや、キエさんのところへ電話をかけました。正確に言うと、私が電話をかけ、母と杉のかちやとで話ができるようにしました。

これまでもひと月に何回かは電話をかけていたのですが、母の耳は遠くなり、電話中に何度も「なしたあ」と聞き直していました。それで、今回はスマホのスピーカを使ってみました。今度は大きな声が聞こえてきます。

「なんだ、キチャか」

「おまさん、元気でいなかかね」

「元気だよ」

「ほっか。そりや、いかった」

「元気でいなきや、うんめもん、食わんねし。元気でいよだね」

「そうだね。春になったら、また会いたいもんだね」

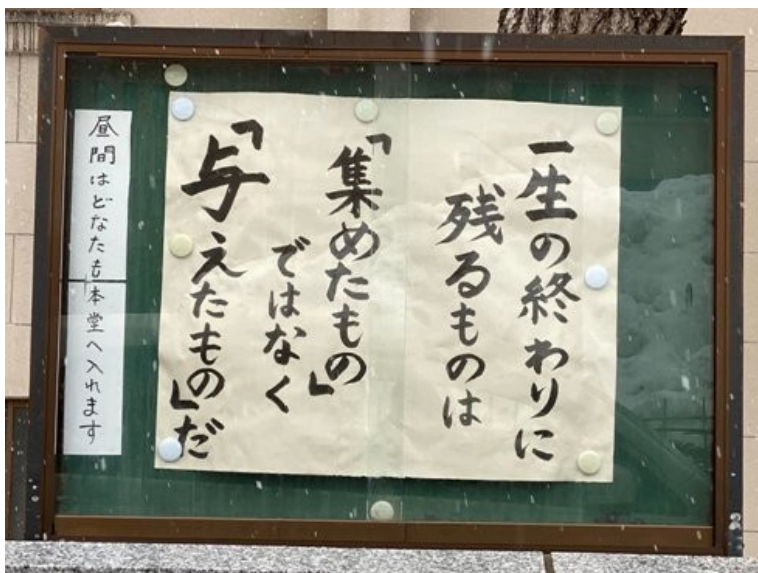
「そだね」

五年前に板山の伯母が亡くなってから、母は七人キョウダイのなかで一人ぼっちになりました。そういうなかで、キョウダイのように仲良くして、お互いに励まし合っていたのが幼友達の杉のかちやでした。

電話はこの数年間だけでも何十回もかけていますが、今回の電話は約一か月ぶりでした。

母のそばで二人のやりとりを聞いていて、気になったのは杉のかちやの声です。何となく弱弱しく聞こえてきたのです。でも、「春になったら、また会いたい」というひと言が心に残りました。早く元気になるってほしい、杉の家のピンクのバラの花を二人で楽しんでほしいと思います。

心に響く浄善寺の掲示板



柿崎は浄善寺の掲示板に書かれた言葉がいま話題になっています。
「一生の終わりに残るものは『集めたもの』ではなく『与えたもの』だ」
そろりと終活をと考えている身としては納得です。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月2日(水)	2月9日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.057	0.053

ぬくもりのある作品、いくつも

柿崎地区公民館1階でいま、「小さな作品展」が開かれています。今月まで。
相澤益行さんの「2021年作品 写真+パステル+和紙」展です。
写真はSNS上で度々見せていただいているのですが、和紙に描かれたパステル画は初めてでした。ぬくもりがあって、とても素敵です。

